

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690400060		
法人名	メディカルケア御所ノ内株式会社		
事業所名	御所ノ内ホーム(2階)		
所在地	京都市下京区西七条南月読町102-1		
自己評価作成日	平成30年10月26日	評価結果市町村受理日	平成31年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>京都武田病院グループとして、医療との連携に力を入れています。また、①家庭的で温かなケアを提供します。②ひとりひとりに寄り添うケアを心懸けます。③確かな知識・技術・方法でケアを行います。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&jigyosyoCd=2690400060-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成30年11月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設から6年目に入り、利用者の平均年齢は89歳、平均介護度3.4になり、車椅子での生活者が多くなりました。グループで何かを一緒にすることも困難な状況も増え、職員は以前にも増して利用者一人ひとりのできる事、楽しみに着目するとともに、廃用症候群の予防など個別化した介護計画を立案し、カンファレンスやモニタリングで情報の提供や計画評価、共有をして、利用者へ寄り添う介護をおこなっています。また、ユニット会議では毎月重点目標を掲げ、各職員の自己採点と平均値で達成度の振り返りをおこなっています。この地域が暮らしの場であった利用者は多くおられ、訪れる喫茶店や花屋での会話や憩いの一時は、心の安らぎを与えています。事業所内は清掃が行き届き、清潔感あふれる環境で利用者の快適な生活を支援しています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は週に1回朝の申し送りで唱和し、各フロアに掲示することで共有できている。 理念に沿ったケアを心がけている。	理念は玄関及び各フロアに掲げ、毎月曜日に唱和している。職員への浸透はヒアリングにおいて確認できた。家族や外部への継続的な発信は、おこなっていない。各ユニットでは理念に基づき各月の重点目標を定め、職員全員の自己採点と全体の平均値とで目標達成度を振り返っている。目標に10月は「外気に触れる機会を作る」11月は「感染症予防をする」が上がっている	理念を、2か月ごとに発刊の機関誌「御所の内だより」やホームページに載せ、家族や外部への発信を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材や日用品の購入、喫茶店等への外出は近隣の店舗を利用している。	町内会に入り、利用者とともに回覧板を回している。秋の地域の運動会にも招かれ参加している。近隣のスーパーや薬局、コンビニでの買い物、行きつけの喫茶店で住民との交流がある。夏祭りでは地域の人も加わり共に楽しんだ。地域に向け、「陽だまりカフェ」へのお誘いや会議室の提供をおこなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症講座などを職員主導で行えないか検討している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや、下京区介護課、家族、地域民生委員から出席があり、意見交換が出来ている。	運営推進会議は家族代表、老人福祉員、地域包括支援センター職員、事業所職員で構成し、1階の小規模多機能事業所と合同で2か月ごとに開催している。今年の豪雨や台風対策を話し合っている。老人福祉員より、「高齢者居場所事業」への登録や運動会への誘いがある。	会議はケアの質などについて、外部の方から貴重な意見や助言を得る機会である。この見地から、地域代表委員の増員を望む。会議では利用者数や平均介護度、事故、ヒヤリ・ハットの報告などとしてより透明化を図り、議事録は家族等に配布を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	下京西部地域包括支援センター、事業者連絡会などで連絡を密にしている。	下京区事業者連絡会や、地域包括支援センター主催の地域ケア会議に出席して、交流や情報収集をしている。区役所への書類提出などの際には、気になることや相談したいことを話し合っている。	

京都府 御所ノ内 ホーム (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修にて高齢者の権利擁護や虐待、拘束0について理解しており、日常でも拘束にあたるかどうか確認しながらケアを行っている。	事業所内研修で毎年、身体拘束や高齢者虐待の研修をする他、ユニット会議でも毎回振り返っている。日頃の職員の言動にも注意し、特に新人には外部研修に積極的に参加させて周知を図っている。帰宅願望の強い方に、職員の少ない夕刻の一定時間のみセンサーを使用し安全を確保している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	排泄の際や入浴時の全身の観察により、利用者の状態を職員間で共有しながら早期発見と虐待防止に努めている。内部研修も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居後の生活については職員からも説明を行っている。契約内容の変更があれば説明し、書面にて同意の確認を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい雰囲気作りを心がけ、家族様と職員でよくコミュニケーションを取り、意見を聞くようにしている。1階には意見箱を設置している。	利用者自ら要望や意見を言う方は減少している。家族の来所時には、職員が近況報告をするとともに、何か意見や要望、困りごとはないか聞き取っている。内容は「介護支援経過」用紙に記録し、職員間での共有や会議での検討に繋げている。最近では、家族とともに介護用食器、スプーン、エプロンなど選んだ。以前は満足度調査(アンケート)をおこなっていたが、今年はできていない。家族会はあるが、開催はできていない。	開設から年数がたち、利用者の重度化が進行するに従って、家族のニーズも変化がある。アンケート調査や家族会の開催などで、本人や家族の真意を汲み取る工夫が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダー会議やユニット会議、日常業務の合間にも、利用者のケアや業務内容についても意見や提案を話し合う機会が持っている。	リーダーは「なんでも言い合える明るい雰囲気づくりを目指しています」と述べている。職員も自分たちが提案したことが、実現されるように発言し取り組んでいる。今年の豪雨や台風では買い物に行きにくい状況があった。このことから食料や飲み物、備品など多めに準備する検討をおこない設置している。	

京都府 御所ノ内 ホーム (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人材育成に力を入れている。残業が少なく、処遇改善加算金の支給も実施されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修参加機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等で他施設の職員と交流する機会がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報の確認、面接を行い安心して入居頂けるよう心がけている。入居後も本人に寄り添い要望を丁寧に聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階から本人様、家族様の不安な点、疑問点に答え、主任・ケアマネ・看護師が丁寧に説明、聞き取りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人情報をもとに必要な支援を見極め支援計画に反映させている。訪問マッサージのお試し利用も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることを見定め、家事なども協力して行っており、食事と一緒に食べ、生活を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会でのコミュニケーションやお便りを送付することで現状報告を行い、行事への参加もお誘いし、一緒に楽しんで頂き家族の絆の大切にしている。		

京都府 御所ノ内 ホーム (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方の面会がある。馴染みの理髪店や喫茶店などを利用、馴染みの場所への散歩を行っている。	平均年齢89歳という現状で、友人等の訪問がある利用者は1名のみになった。昔から近辺に住んでいた利用者が多く、馴染みの花屋で花をまけてもらって買い、昔からある喫茶店でお茶を飲むのを楽しみにしている。散歩途中で話しかけられたりすることもある。決まった理髪店や美容院に家族と出かける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や体調を考慮して席を考え、レクリエーションやコミュニケーションを沢山取れるよう工夫した支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も電話等で対応しており、必要に応じて支援できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にコミュニケーションを取り、一人ひとりの思いを聞くよう努め、毎月ユニット会議でカンファレンスを行い、本人の思いを検討している。日々の関わりの中での趣味、嗜好の発見に努めている。	入所時に「センター方式のアセスメントシート」で利用者や家族から暮らし方の希望や意向を聞き取っている。日々聞き取ったことは介護支援経過に記載して、全職員が目を通し押印している。毎月のユニット会議でカンファレンスをして介護計画に繋げている。介護計画見直し(3か月ごと)時には、アセスメントシートで情報の収集をおこない更新している。細かく利用者の状態や意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には事前情報を確認し、入居後も本人や家族から情報を聞き出し把握に努めている。センター方式シートを活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りにて、日々の状態を職員間で共有している。一人ひとりの心身状態を把握し、毎月のカンファレンスでも現状について話し合いを行っている。		

京都府 御所ノ内 ホーム (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い介護計画に反映させている。3か月に1度プランの見直しを行い、家族様にも説明を行っている。	3か月ごとに更新するアセスメントシートや介護支援経過記録、ケア記録などを参照して毎月カンファレンスをおこない、3か月ごとのモニタリング、計画見直しが丁寧にできている。介護計画は、個別性を重視して、好みやできる事、介護上注意しなければならないことなど記載にある。利用者本位の視点から、カンファレンスがおこなわれていることが分かる。利用者や家族からの意向や、医師からの居宅療養管理指導情報の確認、看護師からの情報提供など踏まえカンファレンスはおこなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を作り、職員間で情報を共有している。特記事項については個別支援経過に記録しセンター方式シートも適宜活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態が変わるたび、スタッフ間の話し合いを持って他フロアとも連携し、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーやコンビニでの買い物、喫茶店へのお出掛け等、馴染みの店や場所などを活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は京都武田病院を利用されており、月2回の訪問診療を受けている。他科受診など他病院への希望や必要があれば応じている。	月2回協力病院内科医の往診の他に、利用者の希望により歯科医の往診、訪問マッサージを受けている。他院に受診するときは、家族とともに看護師が付き添い、受診結果を文書化して家族から同意を貰っている。現場にも看護師から報告がある。救急時の受診は協力病院と連携しており、容易に受診が出来る。看護師は24時間対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間オンコールの体制が整っており、状態の変化時には報告し指示を受け対応している。情報の共有相談を常に行っている。		

京都府 御所ノ内 ホーム (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	京都武田病院と同グループであり、普段から連携をとりながらサービスを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の変化においては、常に早い段階で家族様の面会時などに報告し説明を行い、重度化した場合や終末期においては、京都武田病院と連携を行っている。	「看取り介護と重度化に係る指針」をもとに、契約時に家族等に説明し、同意を取っている。同時に「意向確認書」では緊急時の搬送病院や延命治療などへの意向確認を行っている。グループホームでの看取り介護のマニュアルがあり、状況により看取りは可能であるが、看取りの実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて看護師の指導での救急対応を行っている。利用者個々に必要な対応は看護師と確認している。急変や事故発生時にマニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を年2回実施している。その際、地震や水害も想定し対策に取り組んでいる。	年2度防災訓練を行っている。本年度はすでに1度火災訓練を終えている。近日中に夜間想定避難、通報、マニュアル検証、水消火器による消火と地震と洪水を想定した避難訓練を含み、消防署の協力を得て実施予定である。AEDの取扱いは、施設内研修として、消防署員の指導でおこなっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いに気を配り、排泄時には小さい声で対応しプライバシーに配慮している。	1月の認知症ケア、3月の虐待防止や身体拘束禁止研修など関連付けて人権研修をおこなっている。日頃から声掛けの仕方、声のトーン、露出の最小化、入浴時の同性介助など羞恥心に配慮した支援を心掛け、会議でも話し合っている。食事エプロンも、入居者の尊厳を考慮し不要な時にはすぐに取り外している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話を傾聴し、本人の思いを引き出せるようなコミュニケーションに努め、自己決定の難しい方も分かり易い声掛けや表情からの汲み取りを行っている。		

京都府 御所ノ内 ホーム (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりペースに合わせ、体調に考慮し利用者の希望を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみを整えたり、外出の際には服や帽子を選んだりして、おしゃれができる支援を行っている。訪問理容を活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化もあり準備や片づけを一緒に行うことは難しいが、昼食時に同じテーブルで楽しく一緒に会話を楽しみながら食べている。おやつ作りは、時々一緒に行っている。	昼食と夕食は宅配会社の食材を利用している。1階の厨房でご飯とみそ汁を手作りしている。朝食は利用者それぞれの希望に合わせて、米飯、粥、パン、コーンフレークなど準備している。朝食とおやつは利用者とともに買いに出かけている。以前は利用者と職員が一緒に作っていた。重度化が進行して困難な現状もあるが、テーブル拭きを一緒にする方がいる。希望を聞き、お好み焼き、たこ焼き、ぜんざいなどのおやつを一緒に作っている。誕生日のケーキと小豆ご飯はとても喜ばれる。食物アレルギーやミキサー食・刻み食への対応もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じた食事形態や提供の仕方を工夫している。一日の食事量・水分量は記録を取りながら個々の摂取状況の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じた口腔ケアを行っている。必要の際は、訪問歯科とも連携している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートによって排泄リズムを把握し、個々に応じた支援を行っている。	高齢化が進み身体機能の低下もあり、全員が介助を必要としている。この現状の中でも職員は、排泄パターンの細かい把握に基づき、排泄介護に努めている。自立者1名(パットの汚染確認は必要)、紙パンツから布パンツへの改善事例が2件あり、更にあと1名布パンツになる予定である。夜間もおむつ対応を避け、ポータブルトイレ使用やトイレ誘導、パット交換など援助している。	

京都府 御所ノ内 ホーム (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況に合わせて看護師と相談しながら、薬の調整をし、排便コントロールを行っている。 ヨーグルトや牛乳、水分補給を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	マッサージや病院の受診など、一人ひとり予定や体調に配慮しながら、週2回の入浴を行っている。 重度化により機械浴も検討している。	週2回を目安に入浴予定を組んでいるが、保清のため臨時でシャワー浴をおこなうことは多い。一人ひとり湯を張り替え清潔なお風呂に入っている。本人の好みに合わせ湯の温度を調節している。シャンプーや石鹸など好みの使用がある。入浴後は保湿剤や乳液、水分補給で乾燥や脱水を防いでいる。入浴日には朝から声かけをおこなっており、入浴を拒否する方はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や希望に応じて休息していただいている。安眠できるよう日中の活動への参加も促し、布団やパジャマの洗濯も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬については、説明書にて確認が出来、処方の変更による変化については、センター方式を活用し、観察を行い看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花や習字・裁縫・塗り絵・買い物・おかし作りなど、得意な事、楽しめる事を把握し、個々に応じた気分転換が出来るよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出拒否の方や車いすの方が多く、遠出は難しいが近隣への散歩や買い物、喫茶店への外出を楽しんで頂いている。	スーパーマーケットや薬局へ食料や日用品の買い物、馴染みの花屋、昔からの喫茶店などに外出している。たとえ5分でも外気に触れるよう、事業所周围を回ることもある。近くの比輪田公園での花見、神社参りなどにも出かけている。家族と馴染みの美容院や理容室に行く方もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持たれることは無いが、買い物の際は欲しい物を選びお金を使って頂いている。		

京都府 御所ノ内 ホーム (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば支援するが、現在は電話をかけたり、手紙のやりとりをされる方は、おられない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルに利用者の生けた花を飾ったり、廊下の壁には利用者の作品を展示し、リビングの壁には利用者と一緒に作った季節の飾りつけや壁画を貼っている。気持ちよく過ごせるよう毎日の清掃にも力を入れている。	白いリビングの壁に、手作りの多数のポイントセチアや紅葉した木を飾り、秋の風情を感じる。一角にある畳のスペースは和の落ち着きをもたらす。洗面スペースに観葉植物を置いている。席は利用者同志の相性を考慮して決めている。テーブルは利用者の座位の高さに合わせ、足置きを用意もある。大きな窓から明るい陽光が差し込み、カーテンで採光調節をしている。耳の遠くなった方も増え会話は多くないが、職員の温かい声かけが場を和ませている。室温は適温である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係や状態を考慮し、席の配置を工夫したり、利用者同士の間には職員が入り関わりを持っている。一人になりたいときは、居室へお連れしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やレクリエーションで作成した自作品、誕生日カードなどを飾り、使い慣れた馴染みの物に囲まれた居心地の良い生活を過ごせるよう工夫している。	好みの寝具や家具に習字の作品と家族写真を貼った部屋、テーブルや椅子を設置している部屋、ベッドとタンス以外何も置いていないシンプルな部屋、大事なぬいぐるみ犬と同居している部屋など、各々の部屋に特徴がある。本人と家族が相談して、過ごしやすい環境にレイアウトしている。清掃は職員が毎日おこなっており、整理整頓ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が分かりやすい大きな文字でトイレ、浴室などの対応をしている。共有スペースは広く、動線の安全性も保たれ、自立した生活が送れるように配慮している。		